# 阿蘇

## どこまでも爽(さわ)やかに 真夏の阿蘇で 風が水が緑が呼んでいる

### 自然と人の共和国

**ジリジリと太陽が大地を焦がす夏。悠久の峰々の懐に抱かれた秘境ではひっそりと水が湧き出し、高原ではハーブが風に揺れていた。阿蘇はあくまでも爽やかに出迎えてくれた。**

### ▼風吹く里は阿蘇への南のエントランス

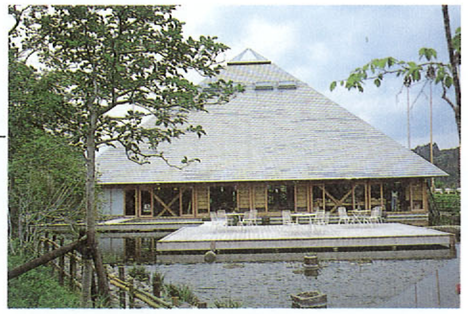
阿蘇への第一歩――。南の玄関口、西原村から踏み出した。

ヒューヒューと西からの風が髪をかき乱す。ここは西原村青少年の森キャンプ場「風の里」。大峯山の山頂に位置するこのキャンプ場は今年四月にオープンしたばかり。円形屋根のロッジはかぶと虫の幼虫、回廊はかぶと虫の羽、トイレはどんぐりの形をしている。村木のクヌギからヒントを得てキャンプ場全体が〝かぶと虫〟と〝どんぐり〟をイメージしてある。ターザンロープやスライダーが設置してある斜面を抜けて展望台に登る。眼下には畑が広がり、その先には熊本空港、そして熊本市街が見える。風がまた一段と強くなってきた。

風の里

俵山を越え「久木野村そば研修センターそば道場」へ向かう。そばのこね鉢を伏せた形を真似て建てられた道場では、そば作りを体験することができる。

久木野村そば研修センターそば道場


「南小国総合物産館きよらカァサ」
都市と農村の情報の発信、受信を可能にした物産館。ピラミッド型の建物は小国杉をふんだんに使用。有機野菜、ハムなどの加工品、米を原料としたライスクリームなどが販売されている。㊢9～18時。㊡なし。☎0967・42・1213

「西里小学校」
小国町が取り組んでいる「悠木の里づくり」の一環として建設された。木造トラス構法を駆使した中央のドームは多目的ホールとして文化活動や生涯教育の場としても使用されている。

「阿蘇下田城ふれあい温泉駅」
全国でも珍しい温泉を併設した駅舎として平成5年7月に完成したばかり。観光客、地域住民の新たな憩いの場として注目されている。㊢10～21時。大人300円。子供150円。

「神楽苑」
木の体験広場、そば公園、神楽資料館などが設置されている。休憩のためのパーキングと地域の文化、歴史、名所などを紹介するスペースとを兼ね備え、建設省が進めている「道の駅」にも指定された。

主婦らしき女性グループがそばを作り始めた。指導員の説明にうなずく彼女たちの手は、すでにそば粉だらけ。混ぜて、こねて、伸ばして…。所要時間は約一時間。出来上がったそばを食べている彼女らに感想を聞く。「コシがあっておいしい」、「意外と簡単だった」。道場の窓から見える南郷谷の眺めをバックに、みんなニコニコ顔だ。ちょうど八月はそばの種まき時。十月には刈り取りの季節がやってくる。

### ▼「九州のへそ」で湧き出る水に出会う

「九州のへそ」蘇陽町にある「蘇陽峡」を訪ねた。高さ百メートル前後の絶壁が十四キロにもわたって延々と続く秘境だ。長崎鼻展望所から仲山ダム方面を望むと、谷底にはゆったりと蛇行する五ケ瀬川。川に覆いかぶさるようにして木々がうっそうと生い茂る。

近くに水源があると聞き、足を延ばしてみた。車一台分ほどの狭いカーブが連続した道を下ってやっとたどり着いた。水源の名は「舟の口水源」。

舟ノ口水源

ぐるりを取り囲むように切り立った岩壁から、水が湧き出し、何本もの白い筋となって流れ落ちる。源というよりは小さな滝という感じ。そっと手で触れてみる。冷たく澄んだ水は、ほてった手と心をさましてくれた。

### ▼人と大自然との共存

「ハーブガーデンうぶやま香草園」では、小さな紫色の花をつけた遅咲きのラベンダーが待っていた。ラベンダーなど香りの高い植物を総称してハーブという。料理、お茶、ポプリなどその用途は幅広い。オーナーの渡辺昇さんの妻、美保子さんは産山村の地域づくりの会「くぬぎ会」メンバーの一人。ハーブ栽培を通して地域づくりに貢献している。温室の中はレモンバーム、パイナップルセージ、ミントなど様々なハーブが約百六十種類栽培されている。訪れる人に気軽に声をかけ、ハーブについて丁寧に説明する渡辺さん夫妻の姿が印象的だった。

ハーブガーデンうぶやま香草園

水は大地を潤し、大地は植物を育む。自然が造った風景は人の心を和ませる。それぞれの町が村が、阿蘇という大自然と共存している。